

平成22年度当初予算案の 概要についてお知らせします

**一般会計209億9,000万円、対前年度比6.5%、14億5,000万円の減、
税収減に対応した堅実予算を編成**

平成22年度予算は、歳入の根幹を成す市税が、景気の落ち込み、あるいは個人所得の減少により平成19年度をピークとして減収が加速しており、今後の財政運営に対する一層の危機感とともに、一般会計209億9,000万円、対前年度6.5%減の予算を編成しました。

歳入では、市税のうち市民税が対前年度3.6%、約2億円の減収となる一方で、地方交付税が89.4%、約3億8,000万円の増額となるほか、子ども手当などの創設に伴い、国庫支出金が24.9%、約5億3,000万円の増額となっています。また、市債については、ひたち野うしく小学校の開校など大規模な投資的事業の終了により48.4%、約16億6,000万円の減額、さらに財政調整基金の取り崩しを最小限に抑えたことにより、繰入金46.4%、約5億4,000万円の減額となっています。

歳出では、総務費がひたち野うしく市役所の維持管理経費などの計上により、対前年度3.6%、約8,900万円の増加、民生費では子ども手当や生活保護費の増により、21.4%、約11億1,000万円の増加、教育費はひたち野うしく小学校の開校に伴い45.9%、約25億5,000万円の減額となりました。

牛久市各会計予算 (単位：千円、%)

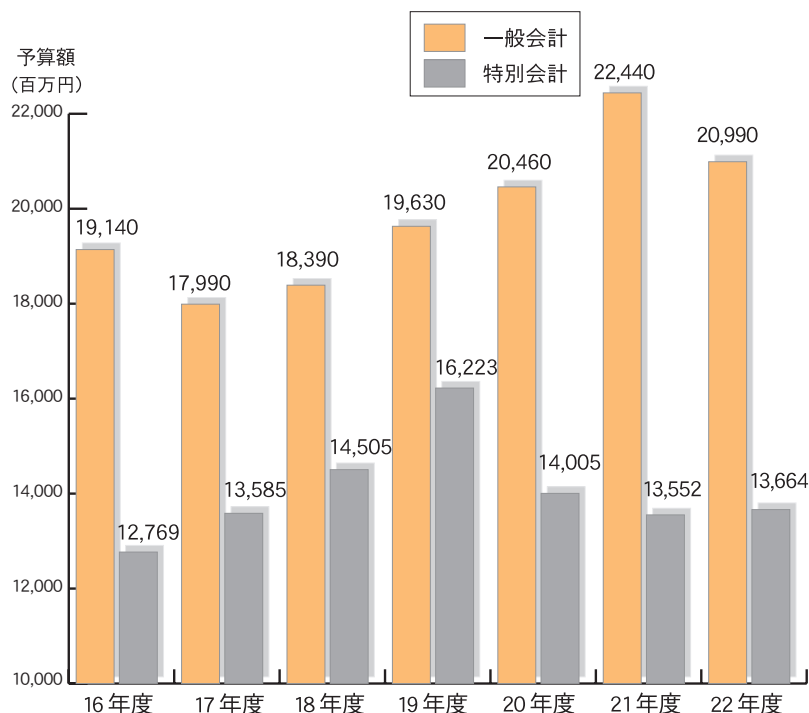
会 計 名	平成22年度		平成21年度		比 較	
	当初予算額	構成比	当初予算額	構成比	増減額	増減率
一 般 会 計	20,990,000	60.6	22,440,000	62.3	△1,450,000	△6.5
国民健康保険事業	7,206,000	20.8	6,771,000	18.8	435,000	6.4
公共下水道事業	2,409,000	7.0	2,516,000	7.0	△107,000	△4.3
青果市場事業	22,500	0.1	21,000	0.1	1,500	7.1
老人保健事業	6,000	0.0	8,500	0.0	△2,500	△29.4
小規模水道事業	44,500	0.1	29,000	0.1	15,500	53.4
介護保険事業	3,028,000	8.7	2,905,000	8.1	123,000	4.2
工業用地造成事業	34,000	0.1	464,500	1.3	△430,500	△92.7
後期高齢者医療事業	914,000	2.6	837,000	2.3	77,000	9.2
特 別 会 計 合 計	13,664,000	39.4	13,552,000	37.7	112,000	0.8
合 計	34,654,000	100.0	35,992,000	100.0	△1,338,000	△3.7

- ◆国民健康保険事業特別会計は、一般、退職者の保険給付費の増加により対前年度6.4%増の72億600万円。
- ◆公共下水道事業特別会計は、維持管理費の減額により対前年度4.3%減の24億900万円。
- ◆青果市場事業特別会計は、管理経費の増加により対前年度7.1%増の2,250万円。
- ◆老人保健事業特別会計は、後期高齢者医療制度以前の医療給付費の減額により対前年度29.4%減の600万円。
- ◆小規模水道事業特別会計は、維持補修工事費の増加により対前年度53.4%増の4,450万円。
- ◆介護保険事業特別会計は、保険給付費の増加により、対前年度4.2%増の30億2,800万円。
- ◆工業用地造成事業特別会計は、造成事業完了により対前年度92.7%減の3,400万円。
- ◆後期高齢者医療事業特別会計は、医療費の増加により対前年度9.2%増の9億1,400万円。

問い合わせ 市行政経営課 ☎内線3301

平成17年度以来の対前年度マイナス予算、 ひたち野うしく小学校の開校と共に身の丈に合った予算規模へ

年度別会計予算額の推移



保育園や小学校の建設、雨水対策、生活道路の整備など、行財政改革を押し進めながら、魅力あるまちづくりのためのさまざまな施策の推進に伴い、毎年増加していた一般会計予算は、平成17年度以来の対前年度、マイナス予算となりました。

市民サービスを低下させることなく、市税の落ち込みに対応した財政運営が求められる中で、引き続き、人件費、公債費の縮減に的を絞った財政運営を行っていきます。さらには、懸念される扶助費の急激な伸びやひたち野うしく小学校の開校、ひたち野リフレビルの開設に伴う維持管理経費などにも注視しながら、限られた財源を効率良く事業展開に生かしていくことが必要となっています。

市民サービスの充実と未来に誇れるまちづくりのために、 限られた財源を主な施策に重点配分

平成22年度の新規または特徴的な事業としては…

総務・衛生

- ・ 集会所新設に対する補助
- ・ 妊婦健診補助の推進
- ・ 地球温暖化対策の推進
- ・ バイオマスタウン構想の推進
- ・ 幼児2人同乗用自転車購入の補助
- ・ 市役所リフレ出張所の開所

民 生

- ・ 子ども手当の支給
- ・ 総合福祉センター空調設備などの改修
- ・ 医療福祉費支給制度の実施
- ・ 障害者の自立に向けた施策の推進
- ・ 地域活動支援センター機能の拡充
- ・ 民間保育園の運営支援

農業・商工・消防

- ・ 新規就農者育成支援
- ・ 耕作放棄地の拡大防止
- ・ 中小企業資金融資の助成
- ・ 牛久沼周辺の整備
- ・ ハートフルクーポン券事業の助成
- ・ 新規公共施設へのAEDの設置

土 木

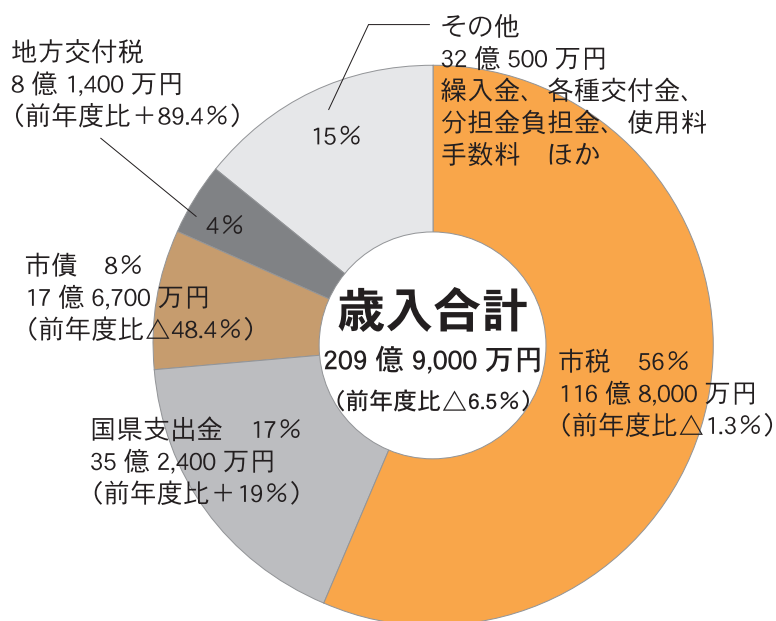
- ・ 市道8号線の整備
- ・ 市道23号線(北側延伸分)の整備
- ・ 市道53号線の整備
- ・ 雨水対策としての道路排水溝整備
- ・ 雨水対策としての田宮西近隣公園の整備
- ・ 狭あい道路の整備拡幅

教 育

- ・ ひたち野うしく小学校プールの建設
- ・ 牛久運動公園・奥野運動広場テニスコートの整備
- ・ 巡回ラジオ体操の開催
- ・ 児童クラブの運営
- ・ ひたち野うしく小学校音楽室などの一般開放

特別会計

- (介護保険事業)
- ・ 特定高齢者の把握と予防事業の強化
- (後期高齢者医療事業)
- ・ 高齢者医療制度の安定的な運営
- (公共下水道事業)
- ・ 下水道(雨水管)の整備

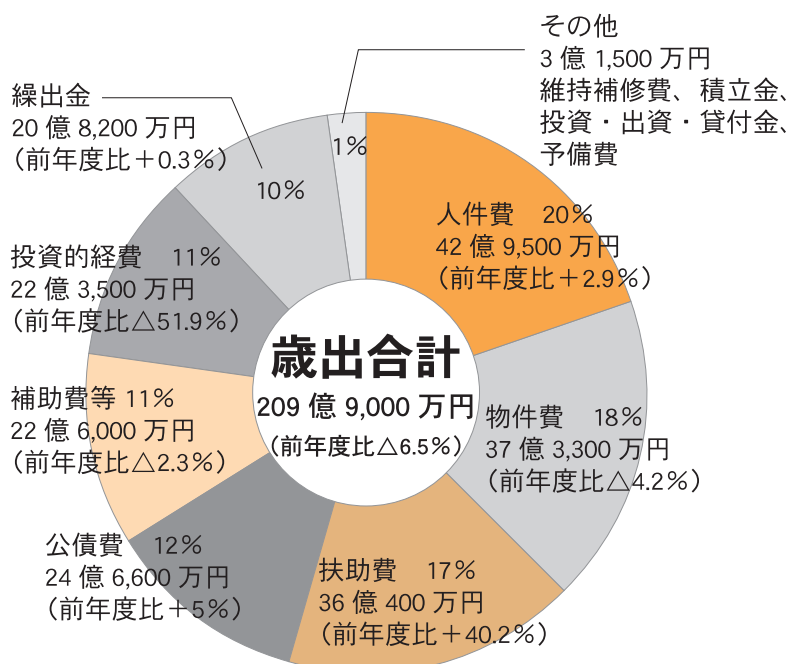
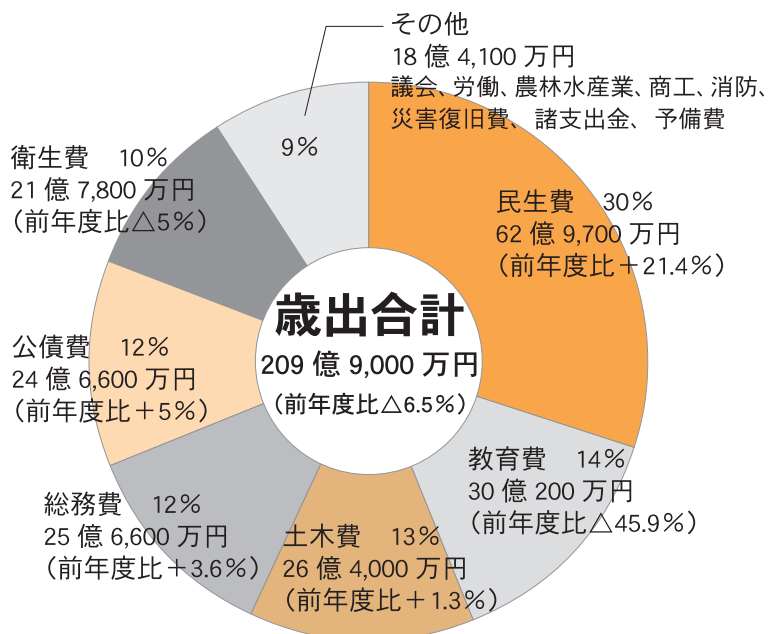


【一般会計歳入予算】

一般会計の歳入内訳を見ると、市税の予算額は前年度比1.3%減となっていますが、歳入合計が6.5%減となっているため、構成割合は平成21年度の53%から56%に増加しています。また、構成割合のうち、前年度2番目に大きかった市債は、発行額が48.4%減となったことにより3番目となり、代わって前年度3番目に大きかった国県支出金が2番目になりました。これは、補助該当事業となるかを常に念頭に置いた行政運営と中長期的な財政状況を考慮した市債発行の抑制がその要因と考えられます。

【一般会計目的別歳出予算】

目的別歳出予算の内訳を見ると、全体の30%を占める民生費は、子ども手当、生活保護費支給費の増などにより21.4%の増加。また、教育費はひたち野うしく小学校校舎などの建設工事の終了などにより、45.9%の減となっています。さらに、土木費についてはまちづくり交付金事業などにより1.3%の増、総務費は国勢調査、退職手当負担金の増などにより、3.6%の増加となっています。



【一般会計性質別歳出予算】

一般会計の歳出の内訳を、経費の使われる性質から分析するため分類したのが左の性質別歳出予算です。構成割合は人件費、物件費、扶助費の順となっています。扶助費の伸びが高いのは、子ども手当や生活保護費の支給が増加したためです。また、投資的経費が前年度より大幅に減少しているのは、ひたち野うしく小学校の校舎などの建設工事の終了などによるものです。